

伊東市教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 令和6年9月24日（火曜日）午後2時30分～午後4時
- 2 場 所 伊東市役所高層棟5階中会議室
- 3 出席者 教育長 高橋 雄幸 委 員 村上 恵宏
委 員 遠山 泰範 委 員 辻 恵
委 員 北岡 ゆうこ
- 4 参 与 教育部長 浜野 義則 次長兼教育総務課長 杉山 宏生
教育指導課長 森田 まり 幼児教育課長 鈴木 慎一
生涯学習課長 山下 匡弘 政策推進担当課長 肥田 耕次
- 5 事務局 教育総務課課長補佐 二宮 悠 主査 藤原 真紀
- 6 会議の経過

高橋教育長：ただ今から伊東市教育委員会9月定例会を開会する。議事に先立ち事務局から報告を行う。

（事務局から出欠報告及び資料確認）

高橋教育長：それでは議事に入る。始めに、教育長報告を行う。9月定例会教育長報告事項について、主な内容のみ説明を行う。

8月22日 サマーレビュー幹部ヒアリング

23日 政策会議、校長会、県教委義務教育課元課長講話

24日 第24回こども絵画大会「世界の名画を描こう」表彰式

26日 第1回伊東市教育問題懇話会、市懲戒審査委員会

27日 東教育事務所所長来庁

28日 市議会初日（議案説明）

9月2日 大綱質疑通告日

5日 市議会（大綱質疑）、

パラリンピックボッチャ競技PV（銅メダル）

- 6 日 ロータリークラブ元会長来庁
- 7 日 市教育機関職員採用試験第3次試験（面接試験）
- 9 日 市議会（大綱質疑）
- 10 日 市議会（一般質問）
- 11 日 市議会（一般質問）、市教育機関職員試験委員会、
パラリンピック銅メダル「杉村選手」伊東駅出迎え
- 13 日 市議会（一般質問、議案審議）
- 17 日 市議会福祉文教委員会
- 18 日 姉妹都市（諏訪市）交流学習会、部活動あり方委員会報告
- 19 日 市職員10月人事異動内示、市立保育園人事異動内示
- 22 日 全国公募千字文大会表彰式
- 24 日 教育委員会定例会、市長と教育委員との懇談会

以上で報告を終わるが、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：次に、各委員からの報告をお願いします。

（報告なし）

高橋教育長：次にその他、報告事項に入る。

浜野教育部長：それでは、市議会9月定例会の議案について、説明をさせていただきます。

（**浜野教育部長**から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：議会答弁の中で特にここはというポイントがあったら教えていただきたい。

浜野教育部長：今回特に学校施設の老朽化というところで複数の議員から質問がされて、我々も古くなって状況が進んでいるということは承知している中で、限られた予算の中で修繕等を行っているが、特にその辺が顕著に今回、学校や保護者からの要望の中で出てきたというのは印象を強く持っている。その中で特に緊急性がある、南小学校の校舎の外壁については、我々も現場を見て確認しているところもあり、答弁の中でも、第二質問のやりとりもしているが、そこで早急に対応する旨の答弁をさせていただいており、今日修繕してすぐ直るわけではないが、特に安全性に問題がある部分については、教育委員会としても早急に対応していきたいという事がある。あともう一つ保護者の負担の軽減という観点の質問が多かったと思う。例えば、通学費の支援というのは、これまでもところどころ出てきてはいたが、今回物価高騰と保護者の負担というところがやはり議員さんに訴えられた部分がある。同じように給食の無償化についても、複数の議員からも質問があり、これについては県の方に要望を出しており、何とか実現できればと思いつつも県でもなかなか難しいというところもあるので、そこについては引き続き検討していきたい。

高橋教育長：続いて第1回教育問題懇話会について報告をお願いする。

（**杉山次長兼教育総務課長**から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：少し前のニュースで岡山県のPTAの組織を解散したと報じていて、PTAに関しての考え方とか、都市部だと組織を継続することがなかなか難しくなっているという状況を聞く。伊東もこれからいろいろな世代の方々がまた関わってくる中で、学校側と保護者側とで子供たちが過ごしやすくなるために、情報を交換したりするのもPTAはすごく大事だと思うが、強制の組織ではないということで、PTAの組織がなくなるという県が出てきたことにおい

て、今後どういう形に変わっていくのか、今後に向けてどう考えているのか伺いたい。

杉山次長兼教育総務課長：PTA組織を解散したのが県単位ということで、市単位や学校単位ではなかったと思うが、PTA組織については基本、まだまだなくならないと思いつつも、だんだんPTAの奉仕作業などの参加率は、正直減っている部分はあると思う。教育問題懇話会の中で、今後のあり方についてそのような話が出たり、またPTAの方が教育問題懇話会の委員にいますので、今後どういう影響を与えるのか、幅広い年代の方がいるので、意見を聞いたりするような機会があればと思う。

委員：伊東小学校でもアプリを使って参加できる人を応募して、完全にできる人だけやるという形になっているが、それも結構参加してくれる方があると思うが、やはり今まで全員参加としていたのが、だんだん可能な方という形に切り替わり、まだそれは小さい変化かもしれないが、ゆくゆくそういうPTA解散という大きなニュースを、皆さんの意識がどんなふうに変わっていくのか、ちょっと意識をし続けていった方がいいのかと思う。

高橋教育長：今のところは、静岡県は解散ということは全く聞いてないが、教育問題懇話会の中でそういう話題になった場合には、しっかりと議論しながら進めていきたいと思っている。

高橋教育長：以上で報告事項を終了する。次に、「各課報告について」を議題とする。

杉山次長兼教育総務課長：教育総務課から2点報告する。1点目は、幼稚園の教育機関職員採用試験について、8月31日に三次試験を実施し、試験委員会で判断した結果、1名を合格とした。今回、募集人数に達していなかったことから、11月頃から二次募集を実施できるように試験委員会を開催する予定で

ある。２点目は、以前話のあった各地区の子どもの人数を表にまとめたので説明する。

（**杉山次長兼教育総務課長**から資料に沿って説明）

森田教育指導課長：伊東市立小中学校情報セキュリティポリシー（案）について説明する。

（**森田教育指導課長**から資料に沿って説明）

鈴木幼児教育課長：幼児教育課から２点報告する。１点目は、保育園における使用済みオムツの処分について、今年度公立保育園４園で、国からの要請や、時代の流れもあり、これまで保育園での使用済みオムツに関しては、処分せずに家に持ち帰りのお願いをしてきたところである。今年度公立保育園４園で一斉に、使用済みオムツの処分について開始するという事で、ストックするような場所や、回収の体制などを整えて、先週、公立の保育園に通う保護者宛に通知したところである。９月３０日から開始し、今後、園の負担軽減そして保護者の負担軽減に繋がると思う。回収は、環境課が市のゴミ回収とあわせて、燃えるゴミの日、月・水・金曜日の週３日の回収ということで運営していこうと考えている。２点目は、前回の定例会においてご質問いただいた転園をしたような場合についての用品等の購入について、保育園と幼稚園でそれぞれ確認をしたところ、共通して必ずこのものを買うということの対応は基本的にはされていないということであった。例えば３歳児で、よその市から来たりとか、幼稚園から保育園に来たりとか、卒園まで残り２年あるが、どうされますかというような聞き方をして基本的には柔軟に対応しているという話であった。特に保育園で言われたのは、５歳でわざわざ買うのももったいないということで家庭の負担を考え、主には貸し出しをしながら、無理のないように柔軟に対応しているということもあり、園服に関しては、やはり他の子と違うものでみんな

なで集合写真を撮ったりするということがあるので、園服を着た状態で写真を撮ったりする機会を少しお伝えした上で、そのままでも結構ですというような形で確認を取っているということを確認した。3歳児で転園した場合に、まだ2年ありひよっとしたら買った方がいいのかなというふうにとられたのかもしれないが、決して無理強いして買わなくては駄目みたいなことは民間も含めて、基本的にはされてないということは確認している。

山下生涯学習課長：第59回伊東オレンジビーチマラソンについて説明する。

（山下生涯学習課長から資料に沿って説明）

肥田政策推進担当課長：特になし。

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：地域の子供たちの人数がどれぐらいかということで質問していたので、この資料を見てどうしていったらいいのかとちょっと心配になるぐらい、本当にこの12年間で半分ぐらいに子供たちが減っていくという現状を見て、とても危機感を覚えるような資料で、市全体としても、移住の方とか子供がもっと増えていくような、意識を少しでも持っていった方がいいと思う。この資料はとても貴重だと思うのでこちらからアクセスすれば、ホームページで見えるということだが、何かの機会に実情と予測を、みんなで一緒に共有できるといいと思った。あと地域名が書いてあるが、この地域ごとのマップがあったら、それとあわせてこの地域はこうだというのがあると、どこの場所に今度、学校を統合していくときの候補の可能性が出てくるのかという具体的なイメージになると思うので、これと地域マップみたいなものを合わせて見てみたいと思った。そこをセットにした情報で、みんなで共有できると教育委員会をはじめ、市全体で危機感を持って考えていこうとなればいいと思う。もう一つは情報セキュリティポリシーについて、教員の方々のセキュリティの問題と、子供たち、生

徒さんたちの両方の面でとても大変だなと思うのだが、私も仕事していて、自分の端末を持って行かないで、出先でクラウドへアクセスして自分の情報をそこに溜めて見るということをよくするが、これだと同じ端末で学校の端末を自分の端末と分けていくことがセキュリティ上第一だろうが、使いやすさの点と、なかなかうまくいかないところでご苦労されているなということを拝察する。

先日子供たちのタブレット教科書を拝見して、QRコードがたくさん載っていて、それを端末で見て、実際にこう動いたりとかが見えたりということで、とてもわかりやすくいいと思う反面、先日、物語の大切さということを聞く研修会に参加して、その先生がおっしゃったのは、映像で見えることもわかりやすいという意味ではいいが、文字で読んで、頭の中で想像するという方が、印象にも残るし、心を動かすのは映像ではなく、文字や誰かの語りで聞いて、想像していく力がものすごく大事だというお話をされていた。やはりそれが心を作っていく上ですごく大事なので、全てが目に見える形でデジタル化して見やすくなっていることへの危機感を感じるということ、やはり今便利な方に触れてきているが、クラシカルというか、やっぱり文字とか、人の声ということの中で創造していくという部分の大切さということ、改めてそのとき思ったので、学校教育の中でもこのデジタル化がどんどん進んでいるが、その辺りも大事にしていけるような部分をぜひ意識していただけたらと思う。併せて前からちょっと申しているが、案内もデジタル化されているが、紙で欲しいという保護者の方がいまだにちょっといるので、そのあたりの移行期になるので引き続き保護者の方の意見を聞きながら、必ず紙で残す部分と、デジタルに移行している部分の縦分けというのが進めばいいなと思う。

杉山次長兼教育総務課長：資料の上下で数字が変わってくるので想定どおりにはいかないというところと、中には想定よりも増えているという地区もあり、

ただ今後この数字を見ていく中で、細かい学校ごとの総人数だとか、クラス編成など再編成をする上では意識しなくてはいけない数字なので、自分たちも3年後、5年後、10年後とか、考えていかななくてはならないというのは常に思っている。

森田教育指導課長：なかなか制限をかけざるを得ない部分というのが多くあり、子供の個人情報や成績に関わる部分や、今教員と子供の間のやりとりのデータを扱うため、授業で使うものとそうでないところの道筋を完全に分けておかないと、両方が混ざって使い始めてしまったときに万が一、子供の方から漏れるということも考えられる。追々は、限られた人がアクセスする安全なクラウドがあると、子供のこと学校に関することは一遍にそこで使えるとなってくると少しよくなるのかなと思っている。いろいろなものがデジタル化されて教科書でも、QRコードを読み込んで映像で見られるというのものもある。今日の新聞で、今、外国語については学校現場でデジタル教科書が支給されているが、それをどれぐらい使っているかというようなアンケートをとったときに、まだ紙の方を多く使っているという学校が圧倒的に多いと報じられていた。外国語は使いやすいということで他の教科より多く使っているが、それでもやはり紙媒体であることによって指導のしやすさがあり、子供の認識でも全然記憶の残り方が違ったりする。友達は何ページ開いてくださいと言って開いた経験とか、いろいろなことがあって子供の学習が進んでいくので、実際学校現場では多くの紙の教科書がまだ使われている。学校現場で、デジタル教科書の使用を進めていきたいというのは、全体としての大きなテーマであるが、実際、そればかりではないということがここで今現在の調査として一つ出てきたところだというふうに思っている。

委員：紙でなくても文字から映像を起こせる頭であると、これ見たら想像する

前に答えが出てしまうと、自分もそうだが、映画を見たときよりも小説を読んだ方が良かったみたいな感想を持つ方が多いと思うが、自分の想像の中の世界で見ていく面白さがあると思う。どういうことかなと考える前に答えが出てしまうということの危うさみたいな話だったと認識していて、もちろん見える広がりもあるだろうが、そのバランスという意味で、先生方のやっぱり御指導も大きく変わってくると思うが、頭の中に自分で想像していく力みたいなのが、大事にされていくといいと思う。

高橋教育長：やはりその辺非常に重要なことだと思うが、自分の知っている教え子の話を聞くと、本を読むというよりも大体どの子も小さいうちから Y o u T u b e というそういう時代に入っている。Y o u T u b e が悪いというわけではないが、Y o u T u b e はもうほとんど生活の中心。だから学校だけではなくて、家庭教育の中でも重要なものがあると思う。じっくり本を読んだり本と向かい合って、自分と対話したり、学校の先生方もそのじっくりと対話を指導と言っても、なかなか難しい面も実際あるのかなと感じたこともあるが、委員がおっしゃったようにしっかりと本を読んで自分の頭の中で、想像することは重要なことだと思うので、学校教育に関わるものとして、受け止めてしっかりやっていきたいと思う。

高橋教育長：全体的に何かあればお願いしたいと思う。

委員：ある地域で、小学生の方が市長さんに、「夏の通学は暑くてつらい」と言ったら、保冷剤をランドセルと背中の中に入れるということをするようになったらしくて、それに当たって学校の教室に冷凍庫を設置して、家で朝冷たい保冷剤を入れていって、学校に着いたら冷凍庫に入れてまた冷やして、帰る時にそれを背中に入れて帰ってくということをしている地域があるらしくて、子供たちの意見を聞くと「すごい楽になった」と言っていた。暑い中での通学は

大変なので、もちろん冷凍庫が必要になるが、コスト的に抑えながらも効果的なそういう涼を取る対策というのが、例えばランドセルを、夏の時期だけはリュックサックとか、中がメッシュになるだけでも風通しが違うのかなとか、何かそんな形でこんなに暑くなっているので、子供たちの熱中症対策も含めて、今、日傘もずいぶん注目されているが、他の地域で、高校生が日傘を差して帰っている子たちがいたりして、個々の対策でこういうことができるという推奨でもいいし、学校を挙げてこういう形にしましょうという変化でもいいと思うが、そんな対策をまたアイデアを出しながら、子どもたちの安全を確保できたらと思う。

高橋教育長：通学の方は、異常な暑さになってきて子供たちも大変だと思う。保冷剤のこともそうだが何か工夫しながらできることがあれば、また知恵を出し合って学校と連携しながら、やっていかなければならないと思うので、もしかしたら来年の夏あたりには、試験的に1校やってみるとかそういうのもできるだろうし、子供たちの安全についてはしっかり考えていきたい。あと今日市長との話の中で、幼稚園の活用についてちょっと話があり、幼稚園については今7園休園になっているが、例えばここを使いたいというそういう団体がもし出てきたときに、少し整備する中で使えるかどうかという話になった。今の状況について、鎌田幼稚園や南幼稚園をもし借りたいという団体があった場合の対応方法について、どういう形なのか教えていただけたらと思う。

鈴木幼児教育課長：現在7園が休園中で、あくまで施設自体は教育財産の位置づけのままになっているので、市の公共的な事業とか、地域の町内での事業とか、教育財産の範疇でお貸しをしており、例えばそこで何か商売を始めるとか、また別途その施設を完全に民間に貸してということになると、まずは教育財産を一般財産に変更するということが必要になると思っている。今後、幼稚園と

しての機能の復活を見込めるのはなかなか難しいので、こども園として、また活用できるのかどうかそこを考えてそういった活用もないということであれば、教育財産から一般財産に変えて、その活用を図るような、具体的には資産経営課といったところが活用していく流れを考えている。

高橋教育長：基本的に一般財産にしてから資産経営課が貸し出すというそんなイメージなのか。

鈴木幼児教育課長：今はまだ学校と同じ取扱いなので、市のイベントのための練習会場に使いたい、老人会で会合を開きたい、町内会の青年部で会合を開きたいとか、そういったところはもちろん貸している。市の事業ないし公共性があれば、現在も教育財産の目的外使用という考え方で貸しているところである。

委員：荻のナガヤが閉店して、今度マックスバリュが11月にオープン予定だが、お店側と道路の反対側も駐車場なので車の出入りがあると思うが、とくに園児・児童・生徒に事故がなければいいと思っている。その辺で注意喚起のようなものをお知らせしてもらえたらと思う。

高橋教育長：またその辺は、学校に注意喚起を指導するように伝える。

高橋教育長：その他全般的に、何か意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：今後の日程について確認する。

事務局：10月の定例会については、10月25（金曜日）午後2時30分を予定している。11月の定例会については、11月22日（金曜日）を予定とする。

高橋教育長：以上で伊東市教育委員会9月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長 高橋 雄幸

委 員 遠山 泰範

書 記 藤原 真紀